

ふるさとの 育む人

#15 「アスパラガス」



育む人 佐藤 誠勝 さん

農業歴40年。アスパラガス(露地25a、100坪ハウス2棟)、水稲6ha、そば2.3haを栽培。

横手を代表する野菜「アスパラガス」

和食からイタリアンまでこなす万能野菜として人気の「アスパラガス」。アミノ酸の一種「アスパラギン酸」を多く含み、疲労回復や美肌効果をもたらす体に嬉しい野菜です。

JA秋田ふるさとアスパラ部会は、部会員数233人。計72haで栽培されており、昨年度の生産量は約292tに上ります。園芸品目の栽培が盛んな横手市において、市を代表する品目の一つとして多くの方に認識されるまでに成長しています。



雪害にひょう害。降りかかる自然の脅威

しかし、この冬の豪雪は、りんごなどの果樹と同様に多くの園芸品目にも大きな打撃を与えました。アスパラ部会では、例年よりも1週間以上出荷が遅れたほか、全体的に細さが目立ち、規格の低下が見られたのです。厳しいスタートとなった同部会では、より一層の栽培管理を呼びかけ、この状況からの脱却へ向け士気を高めています。

部会員のひとり、佐藤誠勝さんのアスパラガス畑でも、例年より約2週間も生育が遅れていました。さらに、それに追い討ちをかけるかのように、露地ものの初出荷を明日に控えていた5月上旬、横手市内の一部地域を猛烈なヒョウが直撃。天を仰ぎ始めたアスパラガスの穂先は、まるでうつむくように折れ曲がり、出荷を断念せざるを得ませんでした。

「悔しくて言葉が出なかった。でも、すぐに気持ちを切り替えた。やってやろうという気持ちのほうが強くなっていった」と、誠勝さんは力を込めます。



アスパラガスの姿に助けられて

妻の良子さんとともに、一度全てを刈り取り、5月中旬、例年よりも3週間遅い露地アスパラガスの初出荷を迎えました。幸い、品質には影響がなく、春採りのピークを迎えた5月下旬には1日に約500束を出荷するなど、ようやく例年通りの勢いを取り戻し始めています。「アスパラガスは、一度刈り取られても何度でも顔を出し、天を目指す。そのひたむきな姿に助けられた」と、誠勝さんは笑顔で語ります。

今年、農業歴40年目を迎えた誠勝さん。例年にない困難を乗り越えてきたいま、7月に迎える夏採りのピークに思いを馳せながら足しげく畑に通っています。「自然を前に大それたことはできないけれど、1日でも長く生産したい。そのために、目の前の農業に忠実でありたい」と、謙虚に語る誠勝さん。そのひたむきな姿からは、農を愛し、農に生きるひとの、強く深い決意が感じられます。



お弁当やビールのおつまみにも！
『アスパラと鶏のバター焼き』

【材料】(2人分)

アスパラガス:6本、鶏もも肉:1枚(200g)、片栗粉:適量、バター:10g、しょうゆ:大さじ2、みりん:大さじ1、サラダ油:適量

【作り方】

- ①アスパラガス・鶏肉は一口大に切る。鶏肉には片栗粉をまぶしておく
- ②フライパンに油をひき、鶏肉を焼く。
- ③鶏肉がキツネ色になってきたら、バターとアスパラガスを入れ、しょうゆ・みりんをかけたら完成